

お年寄りとの交流体験と地域清掃活動

茨城県古河市立古河第一小学校

学校の概要

学校規模

学級数：19学級(内特殊学級4学級)

児童数：498人

教職員数：28人

体験活動の観点からみた学校環境

古河市は茨城県の西端に位置し、栃木県や埼玉県に隣接している。市内を渡良瀬川が流れ、近くには自然を残した広大な遊水池も広がっている。

人口は約5万9千人で、古くから城下町として発達してきた。学区域は市のほぼ中央に位置し、商業地区であるとともに、歴史的な遺産をたくさん有する地域でもある。

豊かな心を育む教育活動を実践している。

- ・ 花いっぱいを目指して、全員による土づくり、種まき、除草等環境美化に努め、常に花のある学校にする。
- ・ 動物を飼育しふれあい、感動体験から愛護の精神とやさしい心を育む。
- ・ 疑似体験を通して、高齢者や障害のある人の気持ちを理解し、ボランティア活動を実施する。

心身を鍛え、たくましく生き抜く力を培う教育活動の実践

- ・ 学校を開放し、いつでも学校内で楽しく遊べる自然体験の場にする。

連絡先

〒306-0033

茨城県古河中央町3-10-1

電話：0280-22-0101

ホームページ：http://www.koga1-e.ed.jp/

電子メール：ichisho@koga1-e.ed.jp

体験活動の概要

活動のねらい

お年寄りとの交流を通して、福祉に関する関心や意欲を高める。

ボランティア活動の中でのさわやかな心のふれあいを通して、人をいたわる気持ちや親切にするやさしい気持ちを育てる。

ボランティア活動を日常生活に生かそうとする態度を身に付ける。

身の回りの環境や環境問題等に関心を持ち、よりよい環境をめざして、考え、行動しようとする意欲や態度を身に付ける。

主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

「ふれあいいりハビリの方との交流会」

- ・ 第4学年以上の全児童が体験する。
- ・ 学級ごとに年1回実施する。(年8回)
- ・ 総合的な学習の時間 1時間

「日本一きれいな街づくり」の清掃活動

- ・ 全児童で年3回実施する。(学期毎)
- ・ 低学年は校内清掃中心、中学年・高学年は通学路周辺で行う。
- ・ 総合的な学習の時間 2時間

体制等の工夫

市福祉協議会、クリーンセンターとの連携

活動の成果等

明るく、活動的でたくましく、思いやりのある子が多くなってきた。

進んでごみを拾うなど環境保全に対する実践力が育ってきた。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 全体の指導計画

ア 活動の名称及び実施学年

「ふれあいりハビリの方との交流会」：第4学年以上の全学級

「ふれあいりハビリ」...コミュニティーセンターで一人暮らしや障害のある人との交流などを行う市の事業

「日本一きれいな街をめざして」の地域清掃活動：全学年

イ 活動内容

- ・ 「ふれあいりハビリの方との交流会」では、各学級ごとに、交流内容や方法について話し合いや準備を行う。

交流の内容は、子どもたちの劇・手話・手品・ゲーム・季節の行事等の発表会が多い。お年寄りの方からも昔話を聞いたり、昔の遊びを教えてもらったりしている。

- ・ 「日本一きれいな街をめざして」の地域清掃活動は、学期に1回実施する。(年3回)
 - 1・2年生は校内のゴミ拾い(燃えるゴミと燃えないゴミ・資源ゴミの分別)
 - 3・4年生は学校から近い通学路周辺や土手のゴミ拾い(ゴミの分別)
 - 5・6年生は学区内の通学路、総合公園等のゴミ拾い(ゴミの分別)

ウ 教育課程上の位置付け

(ア)総合的な学習の時間における福祉教育や環境教育の一環として体験活動を位置付けている。

(イ)教育課程上では、総合的な学習の時間に位置付けている。学級活動、道徳、国語も関連付けている。

エ 実施時期(日数や時間数)

(ア)「ふれあいりハビリの方との交流会」は第4学年以上で学級ごとに年1回(年8回)総合的な学習の時間1時間(学級活動1時間、道徳1時間、国語1時間も関連)

(イ)「日本一きれいな街づくりをめざして」の地域清掃活動は全学年で学期1回(年3回)1回の実施時間は2時間。総合的な学習の時間(低学年は生活科)。全体で6時間

オ 活動場所

(ア)「ふれあいりハビリの方との交流会」は、学校の体育館、ランチルーム、「地域コミュニティーセンター出城」で活動している。

- ・ 「日本一きれいな街をめざして」の地域清掃活動場所は、低学年が校内、中学年が学校に近い通学路、土手や駅、高学年が学校から少し遠い通学路や総合公園、市役所である。

カ 継続の状況等

- ・ 事前学習として、学級活動や朝の会、帰りの会等で福祉や環境についての話し合いや準備を行った。
- ・ 事後学習として、感想をまとめ、ボランティアコーナーに掲示したり「学校だより」で家庭に知らせたりして、福祉や環境に関する学習への意欲づけを図っている。

2 活動の実際

事例1 『ふれあいりハビリの方との交流会』

(1) 事前指導

ア 学級での話し合い活動

「ふれあいりハビリの方との交流会」の趣旨やこれまでの経過について担任が事前指導した。朝の会や帰りの会で、お年寄りや体の不自由な人たちと交流する際に喜んでもらえそうなことを話し合った。その際、本校で進めてきた各学年ごとの親子ボランティア体験活動(車椅子やアイマスクを使った擬似体験活動、手話教室など)がよい手がかりとなり、活発な話し合いが展開できた。

イ グループでの準備活動

グループごとに役割分担を決め、主に放課後を使い準備を進めた。内容は、手品や紙芝居、音楽の発表など学年に応じた多彩な活動がみられた。

(2) 活動の展開

ア 活動の場や施設

交流会について、お年寄りに配慮し、暖かい季節は主に学校内を、寒い季節には暖房設備の完備した地域の「コミュニティーセンター出城」を活動場所とした。また学校を活動場所とする場合は、体の不自由な人もいるので、負担にならないように児童が迎えに行き、荷物を持ったり、手を支えたりするように配慮している。その中で、児童は自然にお年寄りや体の不自由な人との接し方を学んでいる。学校での活動場所は基本的にはランチルームとしたが、ダンスや音楽の発表では体育館を使用した。活動場所の中には校門から距離があるところなどもあり、特に安全面には十分気を配ったが、児童に手を引かれてお年寄りがいつもより元気に歩き、「かえっていいりハビリになりました。」と係の方から言われてほっとする場面もあった。

イ 平成13年度の交流活動

月 日 (曜日)	担当学年	活 動 場 所	活 動 内 容
6月 6日(水)	5年3組	ランチルーム	おやつ作り
9月 19日(水)	4年1組	ランチルーム	お楽しみ会
9月 30日(日)	全学年	古河一小校庭	運動会に招待
10月 3日(水)	4年3組	古河一小体育館	演技(ダンス)発表
11月 7日(水)	6年1組	ランチルーム	交流給食
11月 17日(土)	全学年	古河一小校庭他	文化発表会
12月 5日(水)	5年1組	コミュニティーセンター	お楽しみ会
1月 16日(水)	6年2組	コミュニティーセンター	カルタ会
2月 6日(水)	5年2組	コミュニティーセンター	豆まき
2月 20日(水)	4年2組	コミュニティーセンター	ひな祭り

ウ 指導者・協力者

交流会当日には、学校からは学級担任、ボランティア担当者が指導に当たる。交流先からは、ふれあいりハビリ担当の保健婦1~2名とボランティアの方3~4名が付き添ってこれている。

エ 児童の活動の状況

活動例【6年2組「カルタ会」】

プログラム

- 1 はじめのこたば
- 2 出合いのあいさつ（自己紹介）
- 3 ふるさとカルタ「許我」
- 4 肩たたきをしよう
- 5 みんなで歌おう（ふるさと 花 他）
- 6 お年寄りの方のお話や歌
- 7 別れのあいさつ
- 8 終わりのこたば



プログラムはすべて児童の話合いの中から生まれたものである。お年寄りに視点をあてて歌の内容やカルタの種類も考えられた。

歌は昔懐かしいもの、カルタは古河の歴史を綴ったふるさとカルタ「許我」であった。お年寄りと一緒にゆっくりとカルタ取りを行い、和気あいあいとしたムードが高まってきたところで、お年寄り与会話しながら肩たたきに移った。児童からの歌のプレゼントの後で、お年寄りの方からも手品や歌が披露された。終始笑顔の絶えない会となり、お年寄りばかりか児童の喜ぶ姿も印象的だった。

活動例【4年1組 お楽しみ会】

4年1組では、「お年寄りを喜ばせたい」という1つの目標に向け、クラスの児童が一丸となって取り組んだ。学級活動で話合いを持ち、グループに分かれて準備を進めた。

・ 朗読グループ

お年寄りにも分かりやすいように読み方を工夫した。

・ ビンゴゲームグループ

自分たちで3日をかけていねいにビンゴカードを作った。

・ おりがみグループ

事前に本を見ながら、鶴などのお手本を作った。当日はお年寄りに折り方を教えてもらった。

・ 歌グループ

キーボードの伴奏をがんばっていた。楽しそうに歌を口ずさむ姿が見られた。

・ 会場準備グループ

たくさんの飾りがつけられ、歓迎ムードを盛り上げた。家で自主的に飾りを作ってきた児童もいた。



楽しいね！交流会

(3) 事後指導

交流会の直後に感想をまとめ、ボランティアコーナーに掲示し全校児童に紹介している。また、お年寄りとふれあった体験を総合的な学習の時間における福祉的な分野に関する学習で発展させている。特に4年生では、ボランティアについて考えるきっかけとなった。自主的に「コミュニティーセンター出城」に出向き、お年寄りにボランティアについてのアンケートをお願いするグループもあった。

事例2 『日本一きれいな街を目指しての地域清掃活動』

(1) 事前指導

ア 学級での話合い活動

学級では給食で出るゴミの分別などを通して、日常的にゴミの問題について前向きに取り

組んでいる。特に、総合的な学習の時間に、ゴミの分別やゴミの軽量化に向けての話し合いを十分に行った。

イ 校内での広報活動

ポスターや校内放送で、ゴミを落とさないよう呼びかけたり、地域清掃活動についてお知らせしたりしている。

(2) 活動の展開

ア 活動の場所

学 年	清掃場所及び経路
第1, 2学年	校庭及び本校敷地内公園
第3学年	古河駅周辺(学校～本町～駅)
第4学年	雀神社周辺(学校～西町～雀神社)
第5学年	市役所周辺(学校～銀行～市役所)
第6学年	市役所周辺(学校～歴史館～市役所)

イ 平成13年度の地域清掃活動の計画

- 1学期 6月2日(土)
- 2学期 11月21日(水)
- 3学期 2月20日(水)

ウ 指導者の役割分担

学級担任は学年の児童の指導に当たり、養護教諭及び特殊学級担当者は指導上配慮を要する児童に付き添い、指導や安全確保に努めた。担任外の教員は、各ポイントを市クリーンセンターから借用した軽トラックで廻りゴミの回収を行った。

エ 児童の活動の状況

どの学年の児童も、各自で用意したゴミ袋をもって、道路や校庭に落ちているゴミを熱心に拾った。

「ただいま清掃中」の旗や児童の様子を見た通行中の方から、「えらいね。」「がんばれ。」などと声をかけられうれしそうだった。児童の中から、「どうしてこんなにゴミが落ちているの?」「たばこの吸い殻が多いね。」「空き缶のゴミ箱ならすぐそこにあるのにね。」などのささやきもきかれた。



ただ今 清掃中

集めたゴミを各学年の解散場所で分別したが、大人以上に厳しく分別する姿がみられた。小さなゴミも一つ一つ指でつまんで分別していた。

(3) 事後指導

総合的な学習の時間や社会科の環境に関する学習活動に発展させ、調べ学習を行った。ゴミの分別について調べたり、リサイクルについて調べたりする児童もいた。また、美しい環境を守るために毎朝自主的に校庭のゴミ拾いを続けている児童もいる。

委員会活動として、給食委員会がゴミの分別について協力を呼びかけたり、ボランティア委

員会が空き缶のリサイクルを行ったりする日常的な活動にも発展している。

3 体験活動のための体制

(1) 学校と関係諸機関との連携

「ふれあいりハビリの方との交流会」は、「ふれあいりハビリ」事業を行っている古河市福祉の森健康推進課と連携を取りながら進めている。年度当初に本校の年間計画と健康推進課の年間計画などを持ち寄り、交流会の計画を立てている。毎回の会の進め方についてもその都度連絡をとりあっている。事前や事後の学習においては、社会福祉協議会からも協力を得ている。(教材教具の貸し出し及び介護体験学習などにおけるゲストティーチャーの派遣など)

「地域清掃活動」については、古河市クリーンセンターと連絡を取り合いながら進めている。(軽トラックの貸出し、ゴミの処分など)

(2) その他

ボランティア体験に関わる費用については、古河市社会福祉協議会からの補助金と「空き缶リサイクル」活動の資源回収報奨金で賄っている。

4 成果と課題

交流会後の感想の中で、「お年寄りに優しくしたい。」「お年寄りはどうやって手伝ってあげるといいんだ。」「お年寄りはもの知りだ。」などの声が聞かれた。保護者からも「一緒に住んでいる祖父母にやさしくなった。」という意見も寄せられている。一人ひとりの児童の中にお年寄りを敬い、大切にしようという心が育っている。

「地域清掃活動」の後では、校庭に落ちているゴミが少なくなった。ゴミを拾うことによって、ゴミを落とさないという気持ちが育つようである。体験活動を契機に、日常的な行動に発展する児童も多い。

5 今後の取組の方向

平成14年度から完全学校週5日制が実施され、児童はますます地域に密着した生活をするようになる。そのことも踏まえて、平成14年度以降は、「ふれあいりハビリの方との交流会」を更に発展させ、例年運動会に招待している地域の老人会との交流も図りたい。

【本事例活用に当たっての留意点】

本校の体験活動には、「お年寄りとの交流体験」、「地域清掃活動」などがある。「お年寄りとの交流体験」の特色は、車椅子や介護体験などを行いそれをてがかりに各学級で交流内容や方法について話し合い、その後実際に活動が行われている点である。その結果、児童の心の中に人をいたわる気持ちが育っているという。また、「地域清掃活動」の特色は、「どうしてこんなにゴミが落ちているの?」といった体験の中から生じた疑問を総合的な学習や社会科の環境学習の中で発展させている点である。その結果、ゴミの分別やリサイクルについて調べたり、自主的に校庭のゴミ拾いを続けたりする児童が出てきたという。

このような活動を行うに当たっては、児童がこれまでに行ってきた活動と体験活動を有機的に結び付け活動内容を深めるとともに、体験の中で生じる疑問を総合的な学習の時間や教科の授業の中で発展させる工夫を行うことが大切である。